

## 平安時代の大型建物跡を発見



大型の掘立柱建物跡。南北13m、東西10.5m。東西に庇を持つ建物と考えられ、一度建て替えられています。(上が北)



柱穴は一辺1～1.5mの方形で、径25cmの柱材が残っていました。また、底面に木材を敷き並べたものも見つかりました。



遺跡全景(南東から)

## ⑪ 岡子山西遺跡(大崎市)

奈良・平安時代の城柵である新田柵跡の南面にあり、これまで柵跡に関連すると考えられる道路跡や建物跡群が確認されています。新田柵跡に隣接した場所で、10世紀前半の大型の建物跡が見つかりました。この時期の建物跡としては最も大きなもので、中心的施設であった可能性があります。

## 平安時代の儀式の跡か



四面に庇のついた掘立柱建物跡で、大きさは東西10.5m、南北9.3m。(北東から)

## ⑫ 八幡沖遺跡(多賀城市)

### 【復興調査】災害公営住宅整備事業

10世紀後半の四面庇付掘立柱建物跡が発見されました。また建物跡の約20m南に位置する土坑からは、建物と同時期の土器が大量に出土しました。四面庇付建物は格式が高いとされており、そこで行われた儀式や宴会で使用された食器がまとめて捨てられた可能性があります。



直径2.8m、深さ0.6mの土坑から、103点の土器が出土しました。土器はロクロで作られた素焼きの杯や高台付杯がほとんどを占めていました。

## 鎌倉～室町時代 水田に浮かび上がる館跡の姿

### ⑬ 内館館跡(多賀城市)

#### 【復興調査】被災ほ場整備事業

水田地帯で複数の溝跡の存在を示すソイルマークが認められました。実際に調査を行ったところ、幅2～4mの堀跡が発見され、三重の堀で囲まれた主郭と二重の堀で囲まれた副郭からなる東西南北ともに約120mの範囲に及ぶ中世の館跡であることが分かりました。堀跡からは高級な中国産青磁の破片などが出土しており、館の暮らしがうかがえます。



航空写真では、稲の生育状況の違いから、堀跡の部分だけ葉の色が濃くなっていることがわかります。こうした現象はソイルマークと呼ばれ、遺跡を発見する目安となります。(提供:多賀城市)



刈り取り後でも稲の色の違い(ソイルマーク)がわかります。延長線上の調査区内からは、はっきりと堀の跡が確認できました。

## 中世の竪穴建物跡



竪穴建物跡は、長軸3.9m、短軸2.4m、深さ0.4mの長方形で、5つの柱穴、周溝、焼土の分布が確認されました。

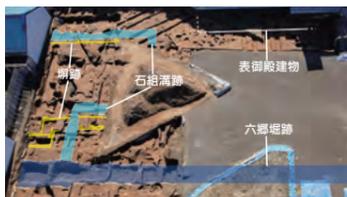
## ⑭ 熊野遺跡(岩沼市)

竪穴建物跡が発見され、床面付近から鎌倉時代に中国から輸入された青磁碗の破片が出土しました。遺構の形状や炉跡と見られる焼土の分布が確認されたことなどから、倉庫または工房として使われていた可能性が考えられます。同様の遺構は東北では青森・秋田など北東北で多く、南東北では少ない傾向があります。



鎌倉時代に中国で生産された青磁(中国浙江省 龍泉窯産の鑄蓮弁文青磁碗)片

## 江戸時代 若林城の大規模な造営と改修工事



若林城の造営以前に流れていた河川跡と六郷堀跡(西から)



若林城の遺構配置図

## ⑮ 若林城跡(仙台市)

若林城跡の北東部に調査し、表御殿の北端に位置する建物や堀跡、石組溝跡、六郷堀跡のほか、若林城の造営以前の河川跡が発見されました。河川跡と六郷堀跡の位置関係から、築城時に河川を埋めて堀を作る大規模な土木工事を行ったことが分かりました。また、築城当初の堀を壊して、排水路(石組溝跡)をつくる改修工事がおこなわれていたことも判明しました。

# 平成27年度 宮城の発掘調査パネル展

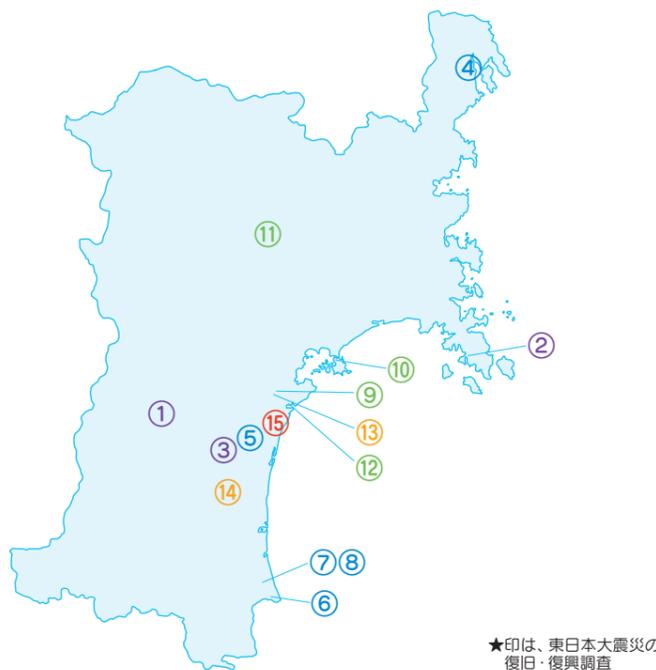
宮城県教育庁文化財保護課

宮城県には、旧石器時代から明治時代まで約6,200ヶ所の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、やむを得ず開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対しては、発掘調査を実施して記録に残しています。

このたび、平成27年度に行った発掘調査の中で、特に注目すべき成果があった遺跡や遺物をパネルで紹介することにいたしました。また本県では、東日本大震災の復興事業に伴う発掘調査が続いており、県教育委員会は全国から集まった派遣職員の支援を得て、調査の早期終了を目指しています。今回は、こうした遺跡の調査成果も取り上げています。この機会に遺跡に親しみ、文化財の保護に対して理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快く御協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



★印は、東日本大震災の復旧・復興調査

時代	世代	日本の主な出来事	パネル番号
旧石器	約650万年前 約3万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる	
縄文	約1万2千年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡(青森県)で集落が営まれる	① ★② ③
弥生	紀元前400年頃	東北地方で米作りが始まる	
古墳	紀元後300年頃	豪族が盛んに古墳を造る	
飛鳥	607年 645年	推古天皇、小野妹子を隣に遣わす(遣隋使) 大化の改新が起こる	★④ ⑤ ⑥
奈良	710年 724年 752年	平城京(奈良市)に都を移す 多賀城が築かれる 東大寺の大仏が完成する	★⑦ ★⑧ ⑨
平安	794年 869年 894年 1167年	平安京(京都市)に都を移す 貞観大地震で多賀城が大きな被害を受ける 遣唐使の派遣が停止される 平清盛が太政大臣となる	★⑩ ⑪ ★⑫
鎌倉	1192年 1274・1281年	源頼朝が征夷大将軍になる 文永・弘安の役(元寇)が起こる	★⑬ ⑭
室町	1338年 1467年	足利尊氏が室町幕府を開く 応仁の乱が起こる	
安土 桃山	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城始まる	
江戸	1603年 1611年	徳川家康が江戸幕府を開く 慶長三陸地震津波で仙台平野が大きな被害を受ける	⑮
明治	1868年 1876年	明治維新 明治天皇が東北を巡幸する。	

## 東日本大震災からの復興と遺跡調査(1)

### 復興事業の促進と遺跡保護の両立を目指して

東日本大震災によって甚大な被害を受けた沿岸市町では、土地区画整理などの新たな街づくりや、道路建設、鉄道移設などの大規模な復興事業が本格化し、また、個人住宅や企業の再建等も進められています。

こうした復興事業が遺跡と重なることが多くありますが、宮城県では、被災地の一日も早い復興と地域のかげがえのない歴史的遺産(遺跡)の保護の両立を目指し、関係機関と協議を重ね、迅速な調査に取り組んでいます。

### ◎調査体制の強化

平成24年度以降、全国から発掘調査専門職員の派遣を受けて調査員を増員し、復興事業に伴う調査に対応しています。

平成27年度は、調査を担当する県教育委員会に対して、計12名の専門職員の方が支援に来ています。

### 【H27派遣職員】(11県1市から)

山形県 新潟県 千葉県 群馬県  
長野県 岐阜県 兵庫県 岡山県  
山口県 佐賀県 宮崎県 新潟市

### ◎宮城県教育委員会の調査体制

	宮城県(※)	派遣職員	計
H24(上半期)	23	9	32
H24(下半期)	23	17	40
H25	23	24	47
H26(上半期)	23	17	40
H26(下半期)	23	18	41
H27	23	12	35

※文化財保護課調査担当職員 22名  
東北歴史博物館(協力) 2名  
多賀城跡調査研究所(協力) 1名

### ◎発掘調査の迅速化

復興事業に伴う調査においては、通常の発掘調査基準を弾力的に運用し、原則として遺跡が壊される範囲のみを調査対象とすることによって盛土施工部分や工事の掘削が及ばない下層の調査等を省き、調査期間の短縮を図っています。

## 東日本大震災からの復興と遺跡調査(2)



調査と並行して進む災害公営住宅の造成(多賀城市八幡沖遺跡)



高台移転先の丘陵斜面で、古墳時代の住居跡を調査(気仙沼市緑館遺跡)



現地説明会で、縄文時代や中世の遺構を一般公開(石巻市羽黒下遺跡)



斜面での大規模な横穴墓群の調査(山元町合戦原遺跡)



JR常磐線の復旧工事に伴う調査(山元町大塚遺跡)



全国から集まった職員を紹介(山元町合戦原遺跡)

## 協力(五十音順)

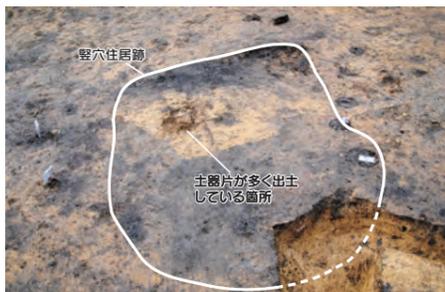
石巻市教育委員会(羽黒下遺跡) 岩沼市教育委員会(熊野遺跡) 気仙沼市教育委員会(緑館遺跡) 仙台市教育委員会(川前遺跡、西台畑遺跡、若林城跡) 多賀城跡調査研究所(多賀城跡) 多賀城市教育委員会(八幡沖遺跡、内館館跡) 東北大学大学院文学研究科考古学研究室(野川遺跡) 東松島市教育委員会(江ノ浜貝塚) 山元町教育委員会(大塚遺跡、合戦原遺跡) 文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>



埋蔵文化財は、国や地域の歴史と文化の成り立ちを明らかにするうえで欠くことのできない国民共有の財産であり、また、これらを解明するうえで発掘調査は必要不可欠なものです。このため、文化庁では「発掘現場から 文化力」のロゴマークを作成し、広くロゴマークを推奨し活用することで、国民や地域住民に埋蔵文化財や発掘調査に対する正しい理解と協力を促進することを目的としています。背景のカラーは発掘調査にふさわしい茶系統を使用しています。

縄文時代

県内最古の竪穴住居跡



掘り下げる竪穴住居跡。長軸2.5m程の楕円形で、住居を埋めている土からは土器片が多数出土しました。

①野川遺跡(仙台市)

縄文時代草創期(約1万3000年前)の竪穴住居跡が県内で初めて発見されました。県内最古の住居跡です。すぐそばで焼礫群が確認され、周辺から狩猟に使われた石鏃、皮なめしや道具の加工に用いられた石器などが出土しました。縄文時代初期の居住地の様子を示す貴重な調査成果です。



約30点の機が1m程の範囲にまとまっています。機は火の熱を受けています。



スクレイパーや鹿角石器は皮なめしに用いられました。矢羽研磨器はこの時期に特有の石器で、礫石として使われたと考えられます。本遺跡のものは県内初で、長さ17.5cm、全国で3番目の大きさです。

牡鹿半島の縄文集落



遺跡は、牡鹿半島の小羽浜を一望できる丘陵に位置しています。

②羽根下遺跡(石巻市)

【復興調査】防災集団移転促進事業

縄文時代前期～中期(約7000～5000年前)の竪穴住居跡と遺物包含層(捨て場)などが発見されました。遺物包含層からは多くの土器・石器がまとまって出土したほか、土偶・石棒など祭りに使う道具や耳飾り・土製の勾玉など装飾品も出土し、当時の人々の生活を知ることができます。



土器は、濡れた状態で出土しているものもあり、元々の形を知ることができます。



イノシシの顔の形をした土器の飾りも見つかっています。

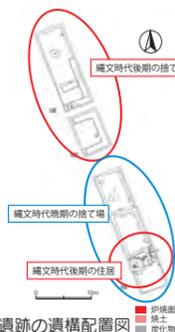
縄文人による空間利用の移り変わり

③川前遺跡(仙台市)

縄文時代後期(約4000年前)の竪穴住居跡3軒と遺物包含層(捨て場)が発見されました。竪穴住居跡は重複しており、同じ場所で建て替えがおこなわれ、中には石を並べた石囲炉をもつものも認められます。これらの住居から20mほど離れた場所では捨て場が形成されました。その後、晩期(約3000年前)になると住居のあった場所が捨て場へと変わったことが分かりました。



竪穴住居跡は、直径3mの円形をしており、ほぼ中央に直径60cmの石囲炉が見つかりました。



川前遺跡の遺構配置図

古墳時代

古墳時代の住居跡を調査



古墳時代後期(7世紀)とみられる竪穴住居跡(南西から)



粘土を焼いて作った紡錘車(糸巻きの軸につける弾み車)

④緑館遺跡(気仙沼市)

【復興調査】防災集団移転促進事業

古墳時代後期(7世紀)の竪穴住居跡が発見されました。一辺6～7mの方形で、4本の柱で屋根を支え壁際にカマドをもつ構造です。また床から紡錘車が出土しました。この時期の住居跡が調査された例はこの地域ではほとんどなく、当時の暮らしぶりを具体的に示す貴重な例です。



斜面途中のテラス状の場所で見つかりました。

役所を支えた集落で井戸跡を発見



方形の竪穴住居跡が密集する中で井戸跡が発見されました。

⑤西台畑遺跡(仙台市)

飛鳥・奈良時代の役所跡である国史跡郡山官衙遺跡の西に隣接する集落跡で、井戸跡が2基発見されました。この時期の井戸は、役所やそれに直接かかわる場所から発見されることがほとんどであることから、本遺跡が役所を支えた人々の集落跡であったと考えられます。



井戸枠は半円形の木材の内側を切りぬいた弧状の材を2つ用いたもので径0.5m、深さは2.2m、底には石が敷かれていました。井戸内からは5個体以上の土師器壺と大きな河原石が見つかり、これらは廃絶時の儀礼によるものとみられます。

古代の鉄生産



「箱形炉」とよばれる製鉄炉跡が2基並んでいる様子



木炭窯イメージ図

⑥犬塚遺跡(山元町)

古墳時代後期から奈良時代の製鉄炉跡3基、木炭窯跡22基、木炭焼成土坑(木炭を焼いた小規模な穴)数十基が発見されました。出土した土器や製鉄炉・木炭窯の形状から、7世紀末頃には製鉄が開始されていたものと考えられます。山元町内では古代の製鉄関連遺構が多数確認されており、この地域への鉄生産の導入と大規模に展開していく過程が明らかになってきました。



製鉄炉の周辺には燃料を作る木炭窯が分布しています。



製鉄に関わった人たちの竪穴住居跡も24軒見つかりました。

横穴墓に刻まれた来世への願い



玄室(遺骸を安置した部屋)の奥壁に刻まれた線刻画。側壁・天井にも線刻とみられる痕跡がありました。玄門(玄室の入口)では装飾付金銅製大刀も出土しています。玄室は奥行き3.0m、幅3.3m、高さ1.7mほどで、今回の調査で確認されている54基の横穴墓の中では最大のものになります。



奥壁で確認された線刻画の概要



鳥とみられる表現

⑧合戦原遺跡(山元町)

【復興調査】防災集団移転促進事業

横穴墓群の中で最大規模の玄室から「線刻画」(岩に線を刻んで描いた絵)が発見されました。複数の人物や鳥とみられる表現のほか様々な図像が認められます。県内ではこれほど多様な例は稀で貴重な発見です。線刻画は人々の他界観・来世観を示すものとされていますが、本遺跡の線刻画には表現が不明なものも多く、今後の解明が待たれます。



横穴墓の様式図と各部名称

豊富な副葬品をもつ横穴墓群



横穴墓群の全景(南から)



(日本書紀) 第1巻 1900 年(複製・加筆)



横穴墓から出土した銅製鞍轡。馬具の一つで、鞍の両わきに下げて足を踏みかけるものです。



装飾付金銅製大刀



腕手刀(古墳時代終末期に東北地方を中心に作られた鉄製の刀)



金銅張りの花形杏葉とよばれる馬の装飾具



副葬されていた様々な須恵器

⑦合戦原遺跡(山元町)

【復興調査】防災集団移転促進事業

古墳時代後期から奈良時代にかけての横穴墓が54基発見されました。土師器・須恵器・玉類・刀類のほか、鉄製・銅製馬具や装飾付金銅製大刀などの豊富な副葬品が出土し、横穴墓の被葬者像を考える上で重要な成果が得られました。

奈良～平安時代

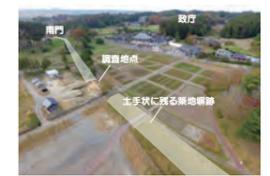
国府南面の守りを固める櫓跡



築地塀基部と最後の段階の櫓跡。東西方向に延びる築地塀の北側に礎石や根石が等間隔に並びます。櫓の規模は東西9.6m、南北2.1m以上。(北東から)

⑨特別史跡多賀城跡(多賀城市)

陸奥国府多賀城外郭南面に築地塀跡と櫓跡が発見されました。櫓は初め掘立柱式で塀をまたいで建てられました。後に礎石式へと改修されました。最後には礎石式で片側を築地塀本体で支える櫓へと建て替えられたと考えられます。東北地方の古代城柵では礎石式の櫓は非常に珍しく、またその全容が発掘調査で確認されたのは初めてです。



調査地点はかつての沢部分。現在でも築地塀の名残が土手に残ります。(南東から)



築地塀の構造

平安時代の官営製塩場

⑩江ノ浜貝塚(東松島市)

【復興調査】被災堤防復旧

海岸沿いの3か所で、炉の構築材とみられる凝灰岩や多量の製塩土器が出土しました。周辺には製塩中にできた成分が漆喰状の塊となって広がり、繰り返し製塩が行われたことを示しています。また、役所との関わりを示す石帯のほか、下筒や墨書土器が出土しており、官営の製塩場であった可能性があります。石帯:役人の腰帯の飾り/ト骨:焼いたひびの跡から吉凶を占った獣骨



東西10mの製塩遺構が3か所で確認されました。(北西から)



東端の製塩遺構(西から)と製塩土器



出土した遺物(縮尺不同)